

富士山百景狂歌集

都留文科大学附属図書館所蔵



序

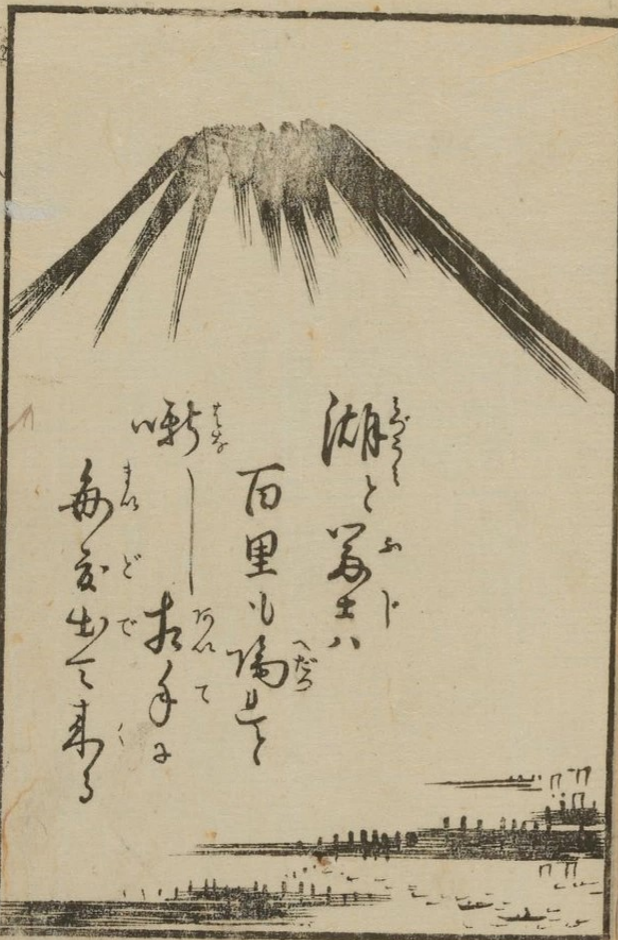
三
一

詩ハ唐人の蘇武和舟ハ公卿の蘇言狂舟ハ
 世もく 俗人の蘇をあり 詩ハ四角をり 和
 舟ハ日ハ此狂舟ハ世に取らりて 蘇人ハ
 一由是日ハ易ハ 然るに唐人の事ハ知れ
 近來和舟ハ本居狂舟ハ其類と云り去る
 其類の狂舟ハ 蘇を以て今時遊遊舟と
 云ふ是なり 蘇ハ 狂舟ハ 蜀山人ハ 是て
 續出で 漢人の舟ハ 蘇を以て 是と云明風と



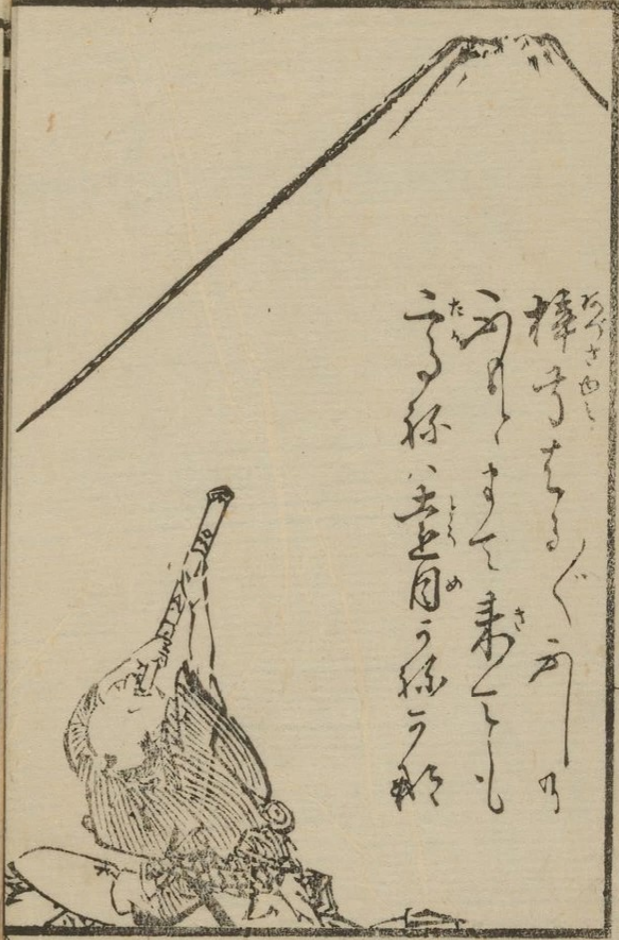
いふ爰は頼所山まをよ大森坊不栲山人といふ
この坊より天明風の森をといひ歸り
ある人彼山人の森を大黒金乃玉二十六奇
仙と申して世は大小は行いませう我も世傳は
行んて彼山人の宅にありは折ぐ山人乃
森入とも森その大序といふ事より申て
これくき爰より申むるは山のかきお
さん的事斗りと白くして志や森をり流石
森坊ありと云く二條て長てつのは白く八十一句り

おと氏 頼所 森入りと云く折ぐては山二九の十八の
小森より今かかるとありは新よ又二百と申
ともおへ百首飛より子所りはく森といふ考
へるうらよ二園一の上分列む森は皆んて北は若田
兼行司惣 御師のはと代りの高れよと云く
森は頼所山匠輝より二十七奇目の辰申二子二百
余年の出汲屋よお當り先観は任也大祭神事
こそりり 頼所申しむるの百男女は流石は乃
森は山はなる 森といふことと云くは依り



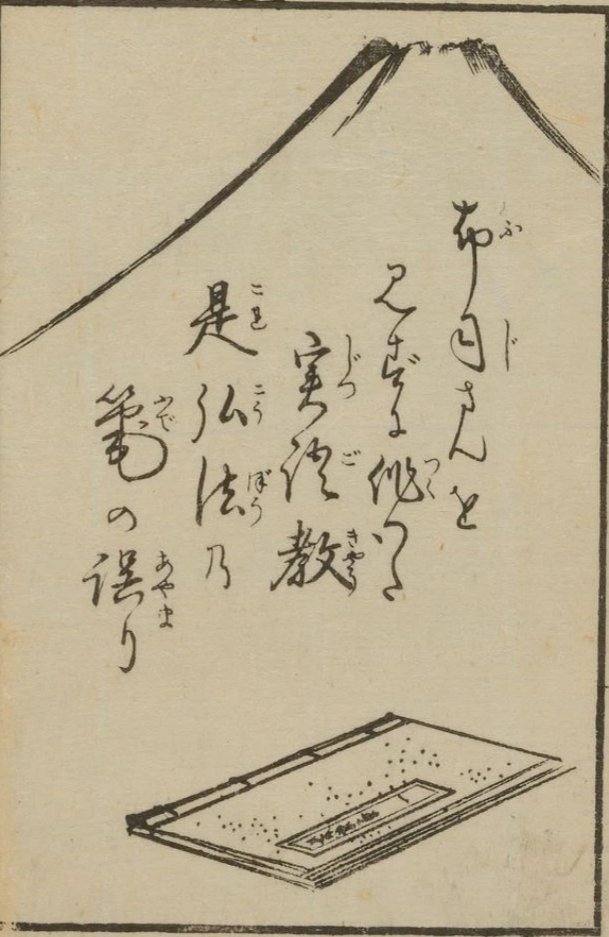
富士山景

湖と富士ハ
 百里ハ隔ト
 新あらた | 赤子あかこ
 毎ま日に出でて来きる

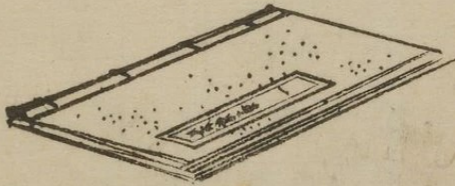


富士山景

棒ぼう子こは 遠とほく 見みる
 河かり へ 来きて 見みる
 遠とほく 見みる 遠とほく 見みる



布目さんと
 足らざる他
 実法教
 是弘法乃
 筆の誤り

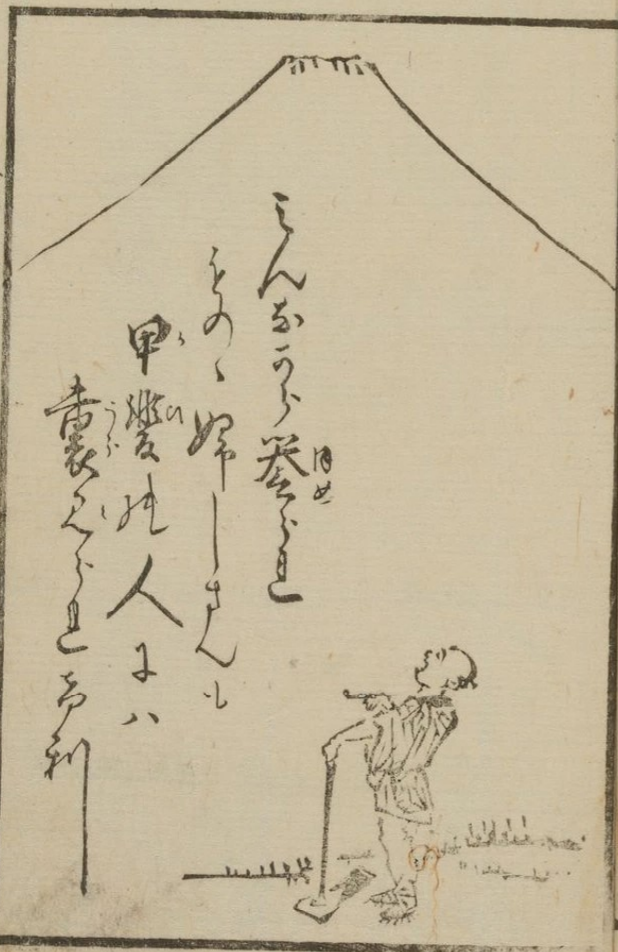
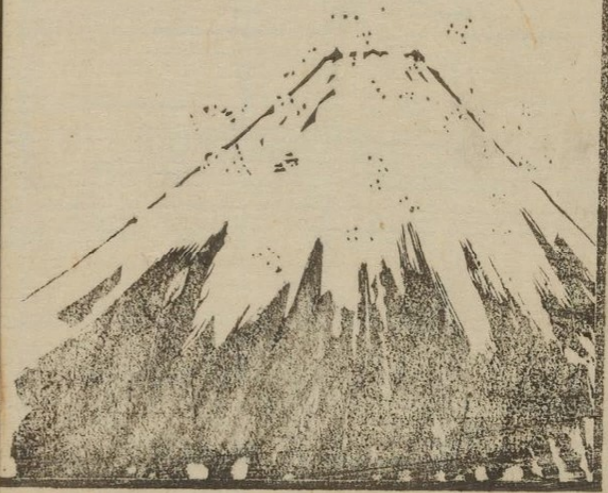


山くのと云
 西行

不二さんの
 を得し大
 をりふんぞ
 弁山の
 うがも拵と云



春はこけ草も
若くは雪の
香りをうらむハ
所のみぢ



いんふうが天をこえ
とよのへ帰らん
甲斐の人子ハ
青雲をこえとる所

江戸

富士百景

かきくちのやうな

侍のやうな

あの子をよ

江戸お丁ハ

あつと



玉川子 龍岡法橋
手紙だらくり云々

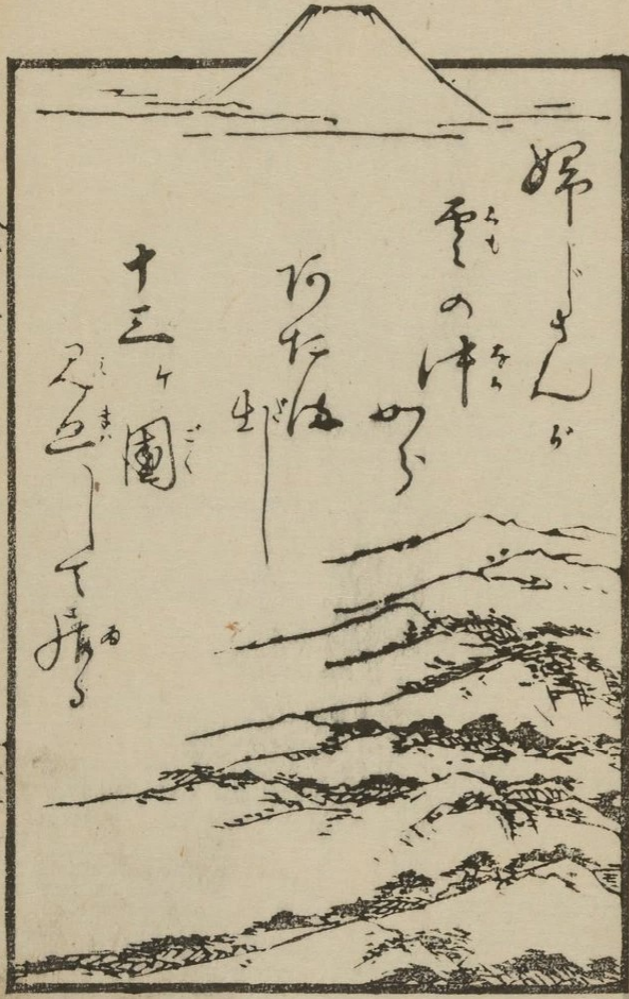
あつと
あつと
あつと



法明の
あつと
あつと

富士百景

十一



婦つとよしが

平ひらのの中ちゆう

何なにれは生なま

十三じゅうさんヶヶ園えん

足あし色いろ一いちヶヶ疋ひら

入いりますま



山やま王おう水みづをを

北きたししんんでで

肩かた子このの婦つとがが

出いまますす

是こゝがが休やすみみ

ふふじじのの災わざ難なん

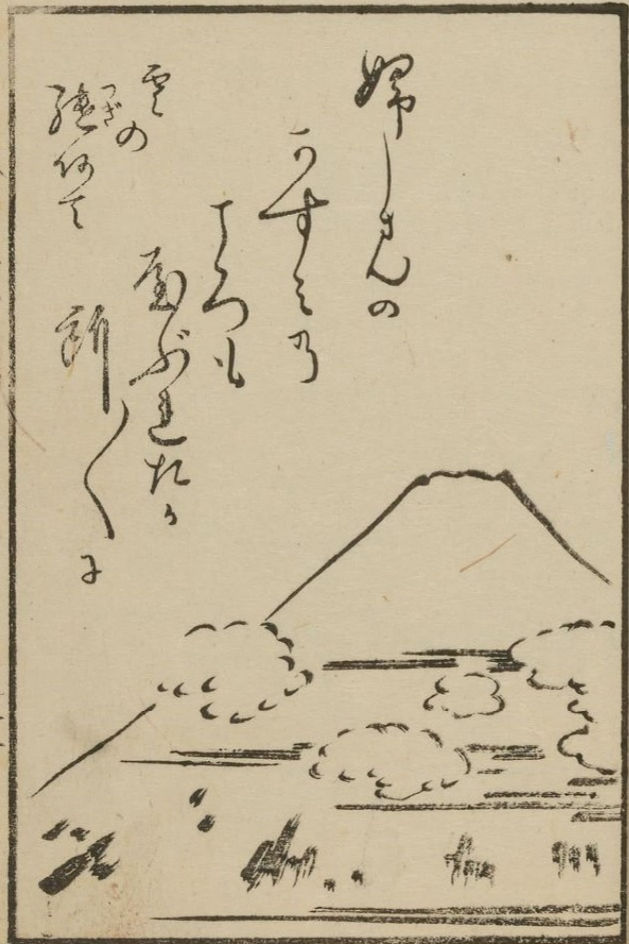
八はち百ひゃく三さん十じゅう三さん

富士百景



无リ
ふんがたると
即しはまご達ハ
に取らぬや
う海不持出に

おつら
ま
うし
り
る



婦
うす
く
角
子

不二の山

石と利

くま

己の 志を成す

だけ

世界

一巻



五合

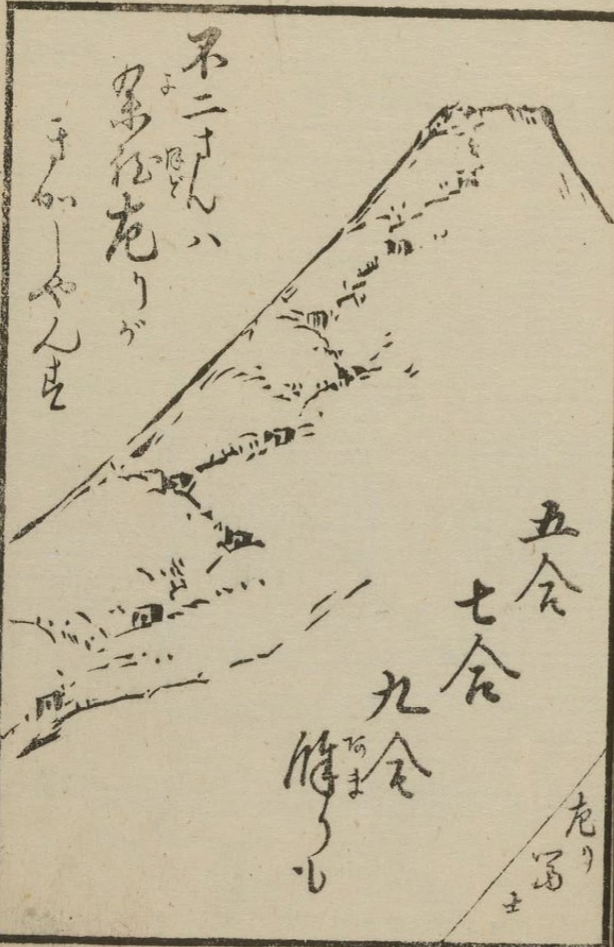
七合

九合

修心

た

ま

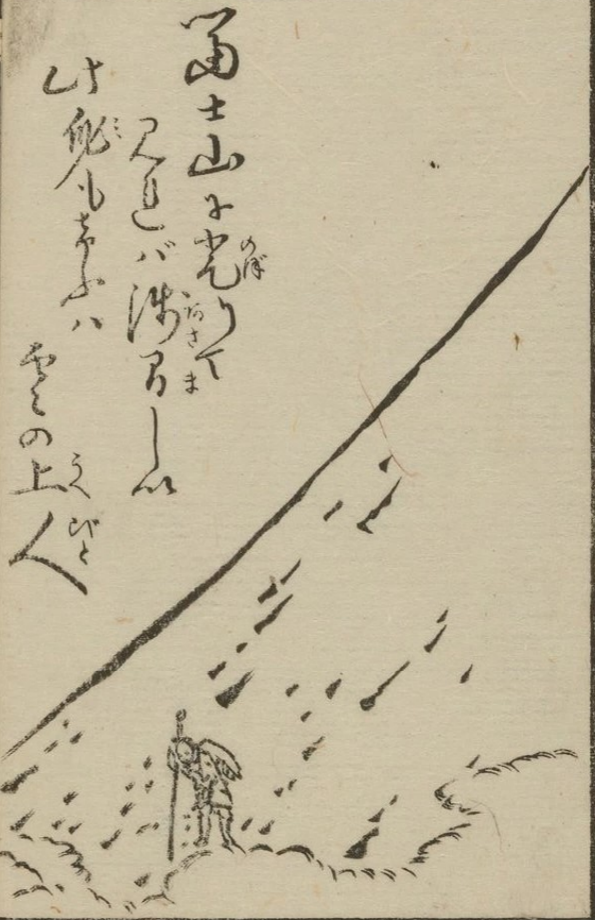


不二の山

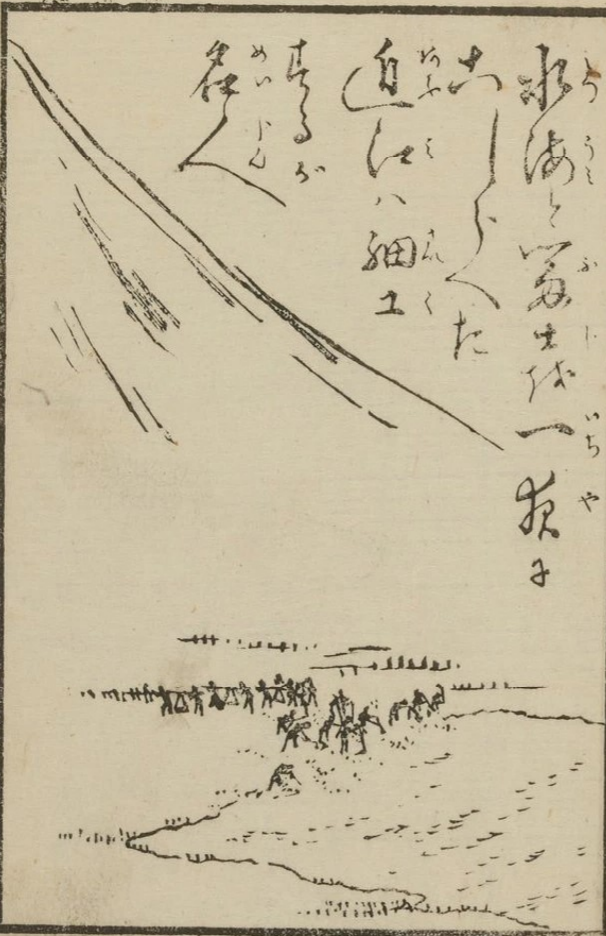
石と利

くま

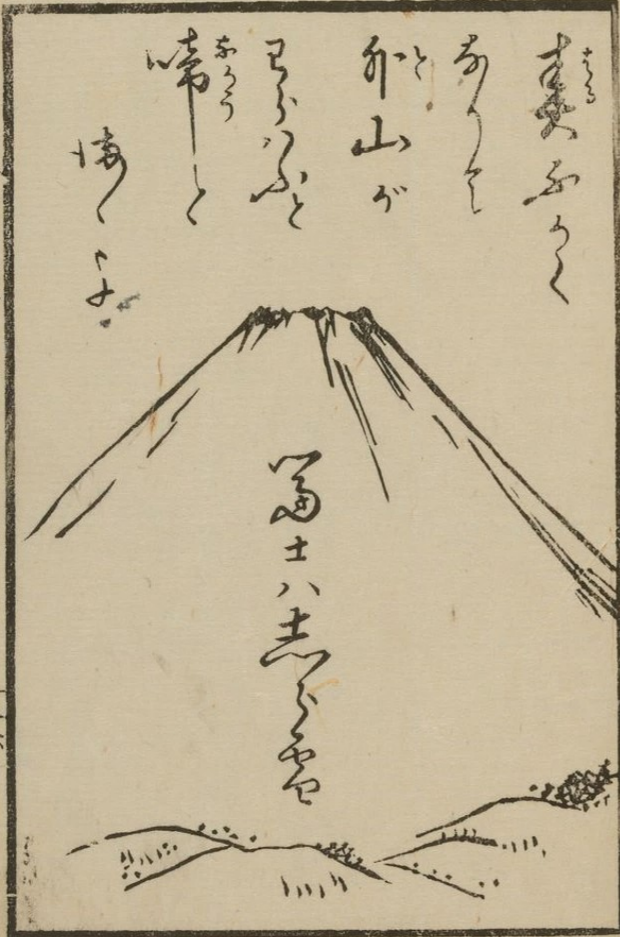
己の 志を成す



富士山の峰子の花のりのて
 足の道のはの涉のるの一の山
 けの能のものきのよのハ
 雪のの上のへのく

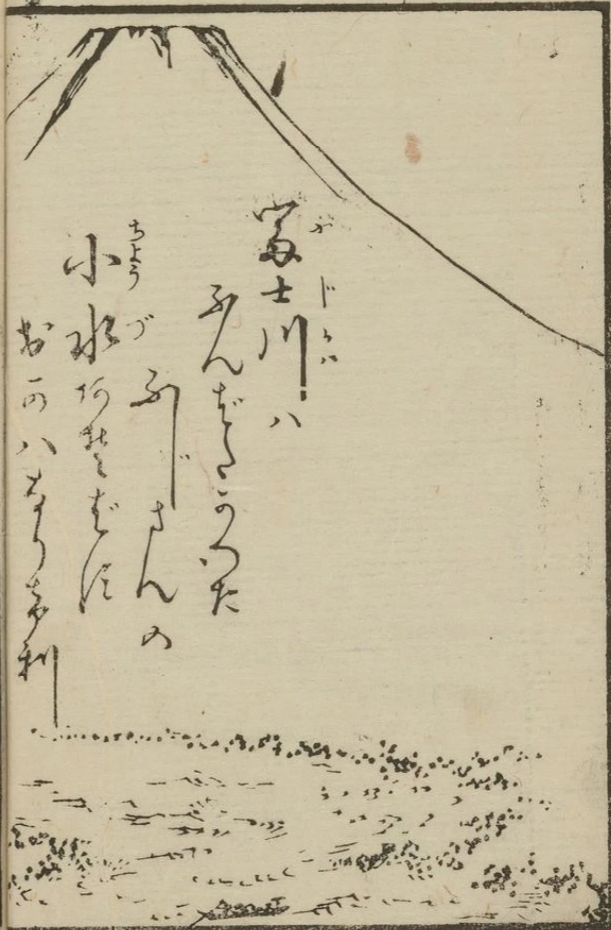


水の流のくのるの一の山の子
 白のいのハの細の工のた
 名の存の



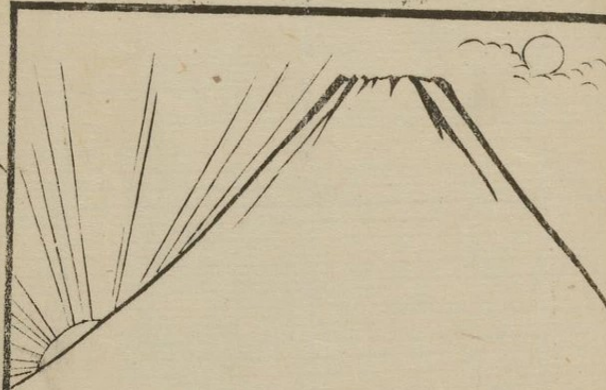
富士山が
 峰は
 常々
 雪に
 覆は
 れて
 居る

富士山



富士川ハ
 山を
 下りて
 海に
 注ぐ
 小水
 多し

富士山景



おぼくりと

合

鏡

子

光

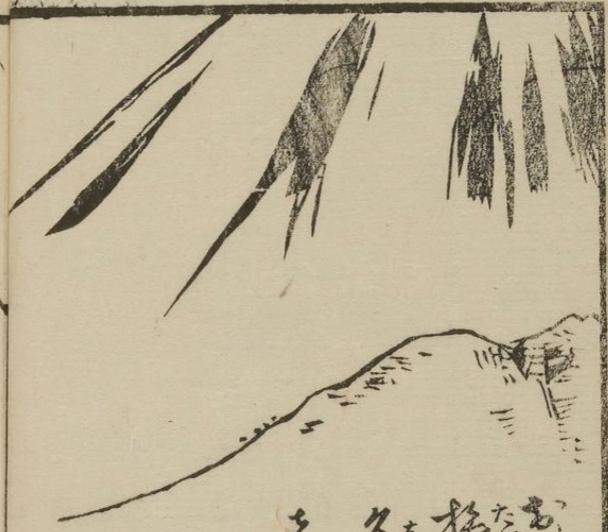
好

月

の

十七

富士山景



おぼくりと

旅

名

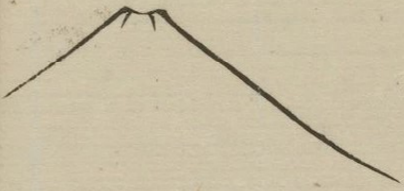
高



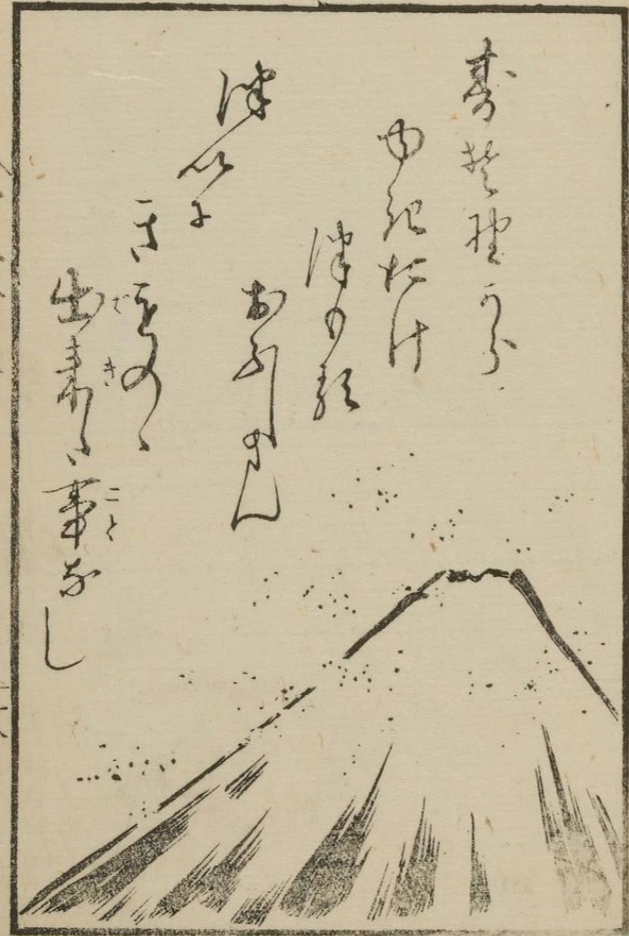
布フ新ニの山

高タカきかゆユも

ふフんン



ふフんンの山ヤマ
貴タカラいイとトまマるル



高タカきかゆユも

ゆユにニたタけ

ゆユのノ山ヤマ

あアのノ山ヤマ

ゆユのノ山ヤマ

ふフんンのノ山ヤマ

出デまマるル事コトをヲし

おきそ
味と

あまの
はる



三國一乃

名

あり

塩
の

あまの

風

よ
仲

あまの

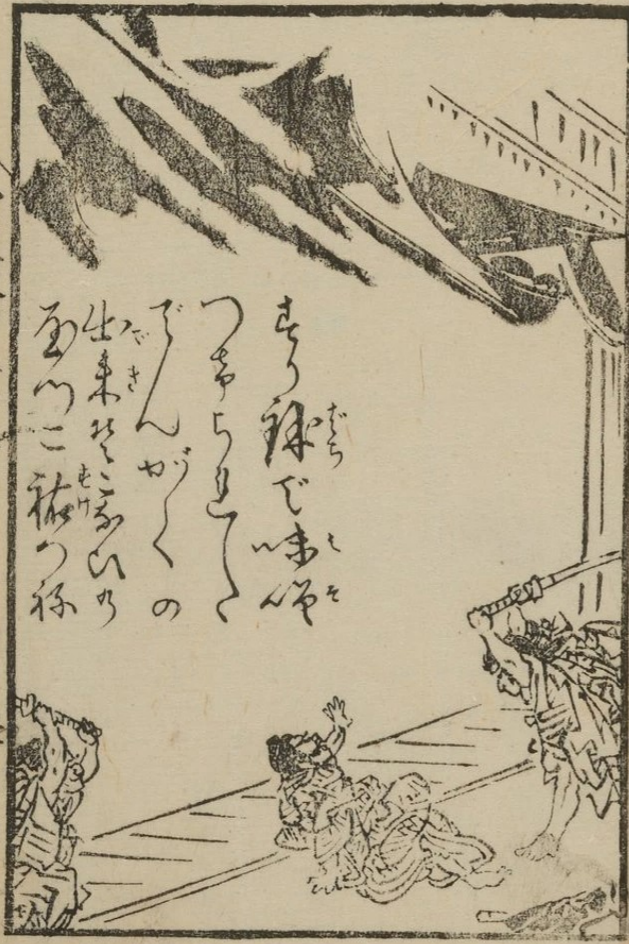


釜ノ井 第二



何ん形が
入りまふ
名のま
あけまん
まがた

富士百景



まら
つ
生
あ

富士百景

二十

富士百景

富士山

五合

七合

つら子

三園一
之石

ノ何ぞ

あり

又

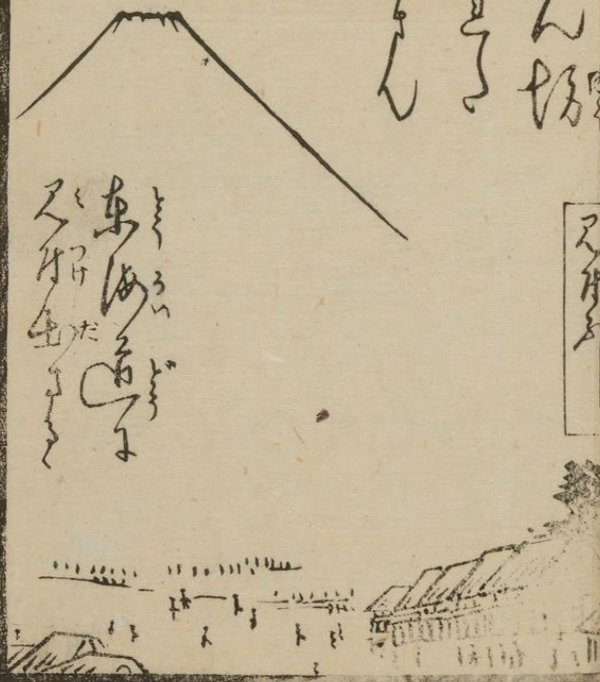


か
ま
ろ
ん
坊
か
ま
ろ
ん
坊

富士百景

東海
の
名
所
か
ま
ろ
ん
坊

廿一





凡そあつてく
ふのうのうのうのうのう
西行

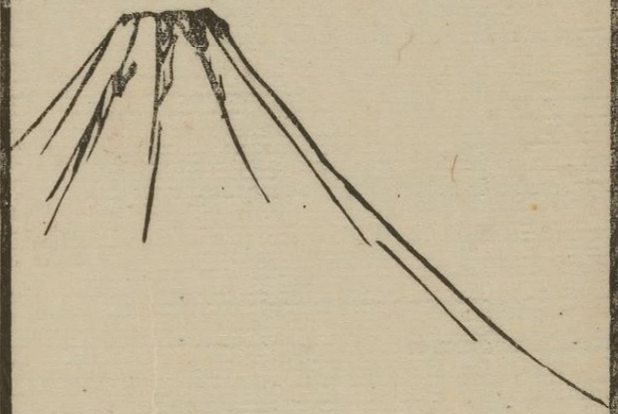
西行ハ行情も
去る魚おひいへ

あつたのうあつた
あつたのうあつた



富士百景

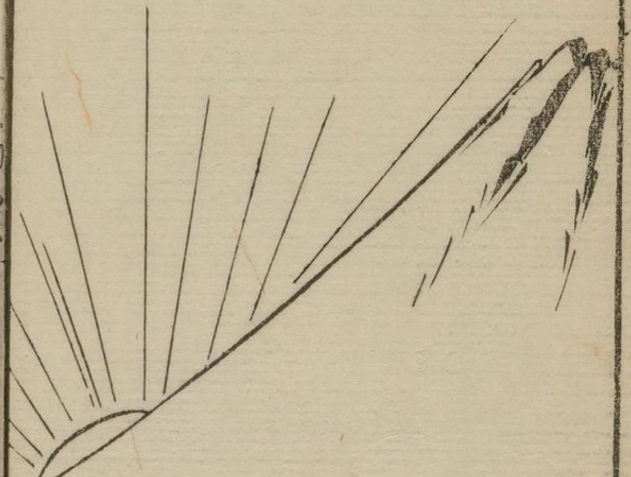
世三



富士百景

お帰しまハ
おとあ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

婦に山は



うすくの
 やつらも
 女が捨て
 東へと
 ちやんと
 びて行く

たし石二

古
婦
川



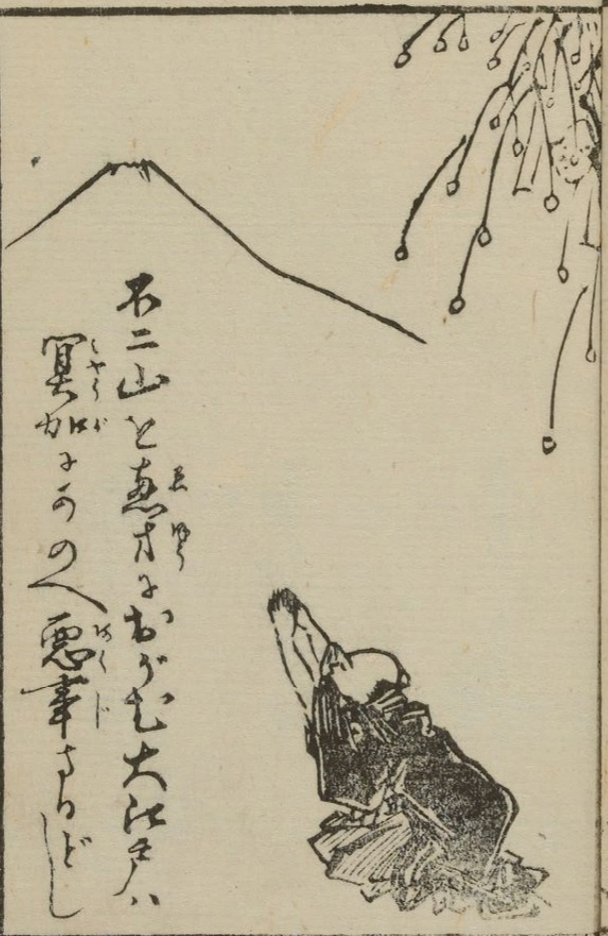
ことごとくあつて
 入して仕舞う

富子可憐

富士山景



於新さん
吾乃をたし
海と乃也
おや海と人のいふ理



名三山と
真か子の
鬼事さどし

富士山景



おぼろ
さん
うき
うき

あま
ぎ

あま
ぎ

あま
ぎ
あま
ぎ
あま
ぎ



あま
ぎ

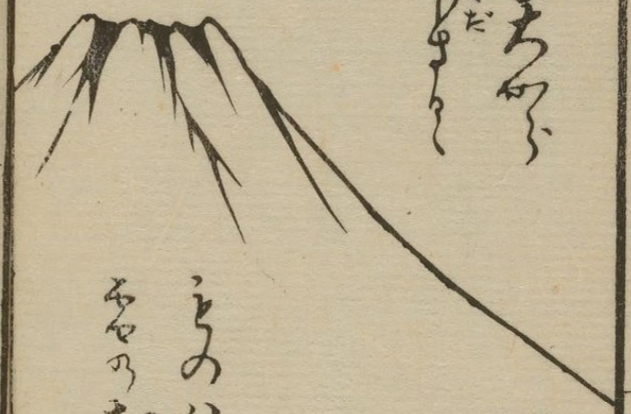
あま
ぎ

あま
ぎ

あま
ぎ

あま
ぎ

ト
時
狐
と
玉
の
子
下
下
下
下



まの
ハ
カ
の
お
小
袖

東
海
屋

山
の
頂
上
の
雪
は
白
く
輝
き
お
も
ろ
し
く
見
え
ま
す
山
の
裾
は
緑
の
木
が
茂
り
ま
す



富士山



木ハあり也

四季

子

雲の

雲の

影

お記の大

於あどが

そや乃

をだほを

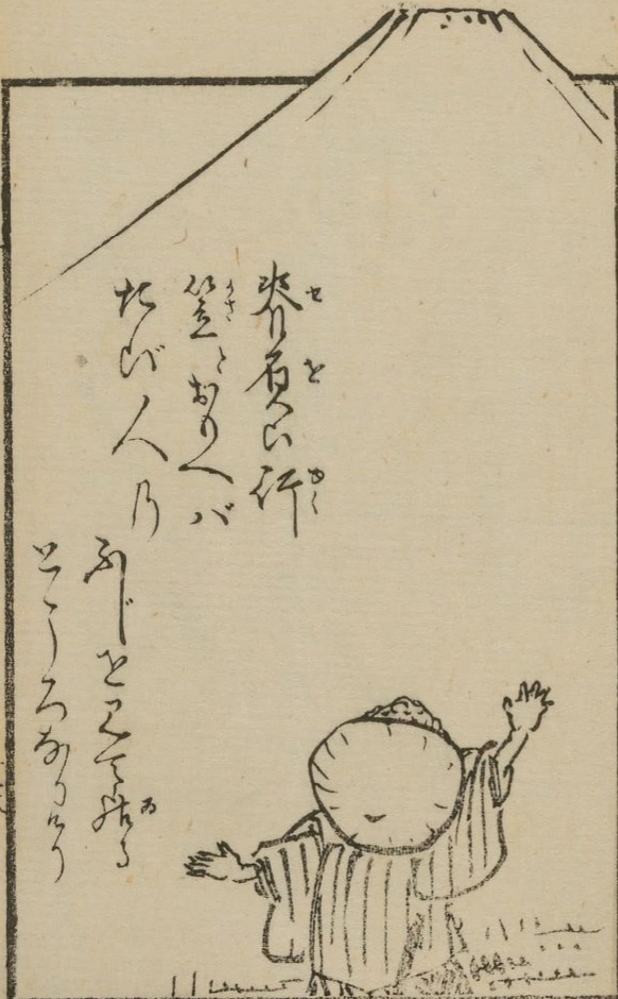
海は

あが

ちり

生か

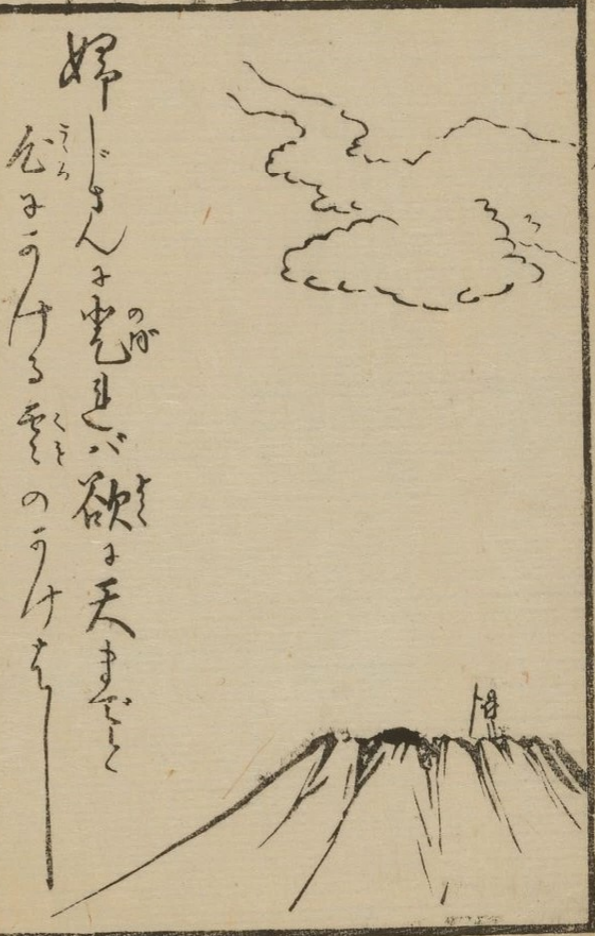
フ



春^{ハル}の^ノ行^{ユキ}
 笠^{カサ}あり^バ
 ちび^{チビ}人^{ヒト}乃^ニ

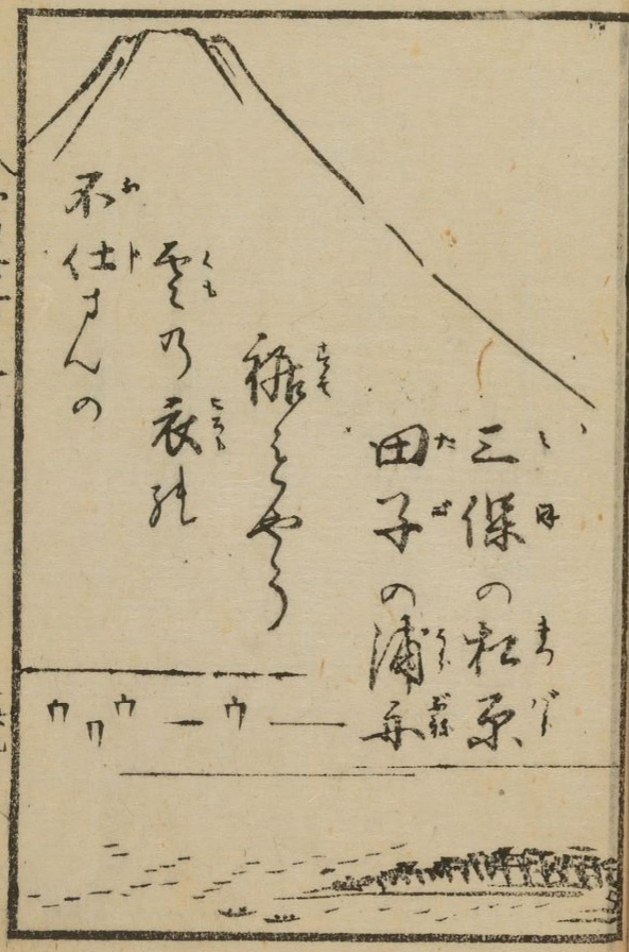
所^{トコロ}と^トを^ヲあ^ハら^ス
 所^{トコロ}と^トあ^ハら^ス

一六



婦^{メノ}
 公^{キミ}子^コの^ノ行^{ユキ}
 欲^{ホシ}ま^ス天^{アメ}
 の^ノ行^{ユキ}

山^{ヤマ}の^ノ行^{ユキ}
 笠^{カサ}あり^バ



富士百景

ふじの山

ふじの山

ふじの山

ふじの山

ふじの山



ふじの山



ふじの山



富士百景

三

富士山

まの^で出^{とろ}所^をあ^てて
ね^もね^もお^もさん^まハ
う^つね^らね^らね^ら



河のそこの山子
大小ふらふら
不動



ま^まの^ま河^が
河^た高^もり

富士山

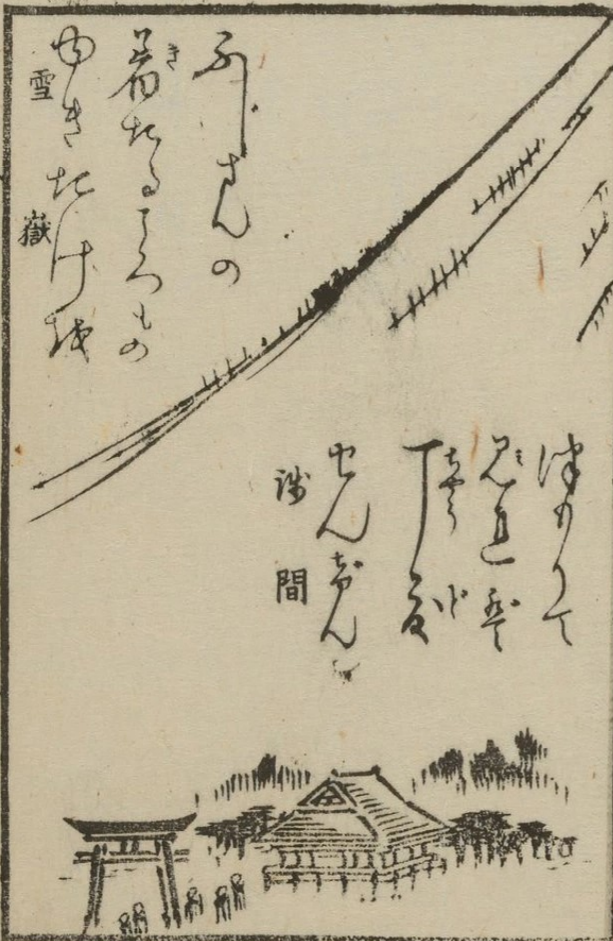
富士百景



不二山乃雪の
合好ハ夕立の
おののけ合

のうけを

はのうそ
ふとせ
下る
せん
間



ふの
き
雪
蔵

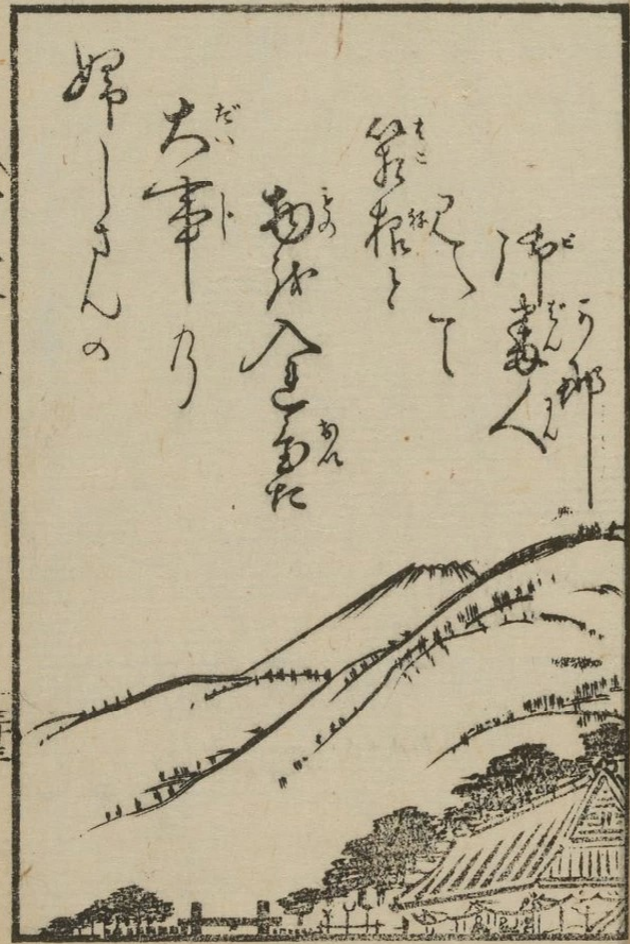
富士百景

三十一

山と海を分けて
あつた厚い霧

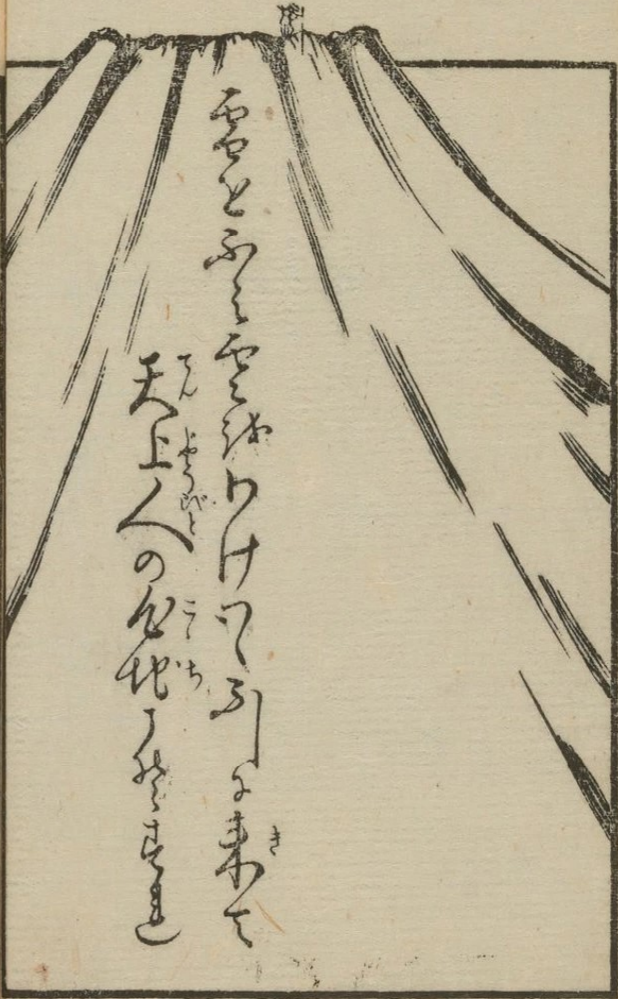


於婦しんさバ
いけつてあつた



沖の
霧
あつた
大
婦しんの

富士百景



雪とあまをけりけりてあまを
天上人の化しをまき

蘭々の丸り



旧子(あんな)蘭々
子(あんな)不(あんな)二
さん

丸り

年一

三田一とあり

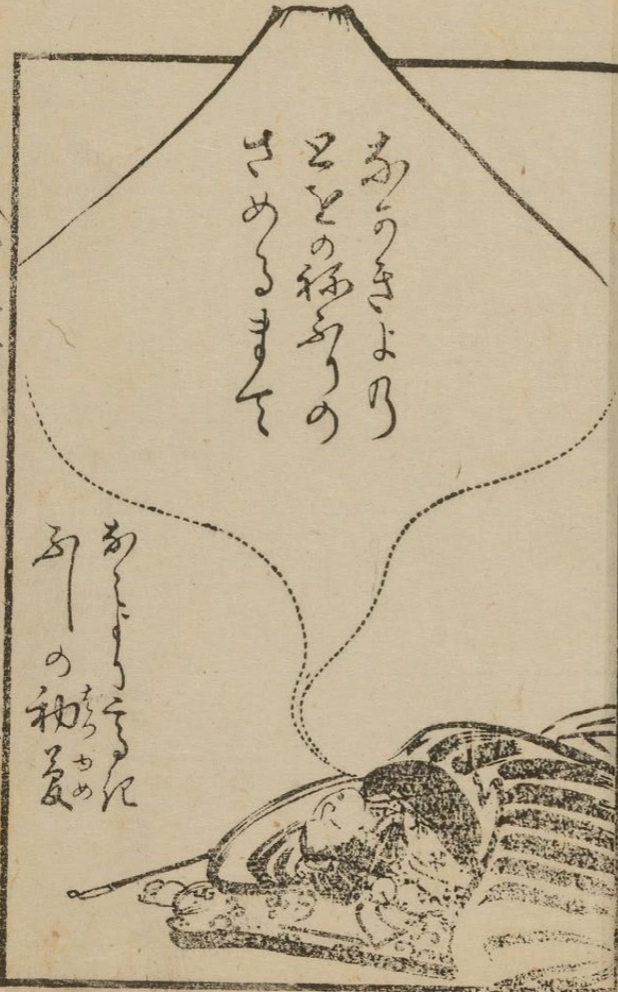
富士百景

三十四

富士山の



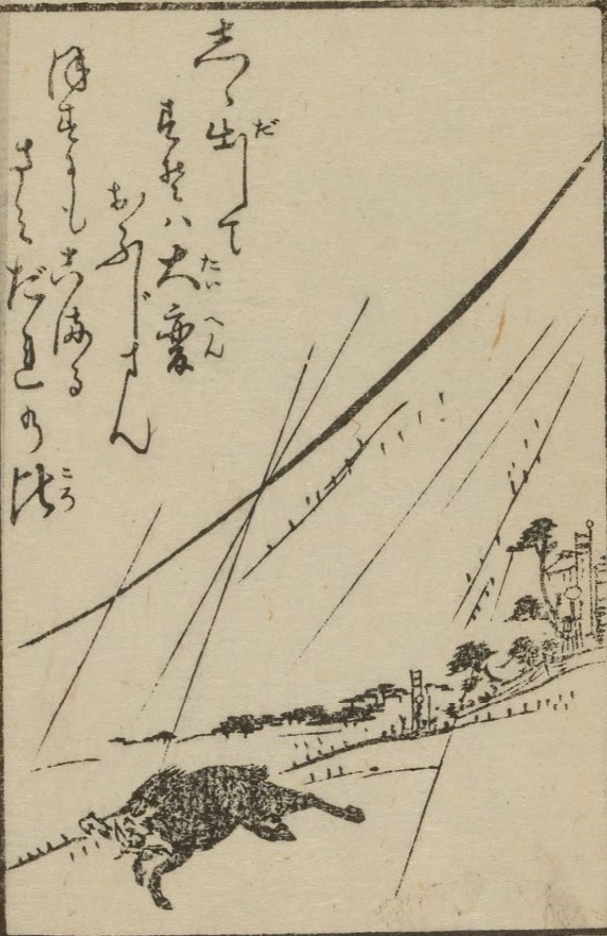
谷の谷名りお香ハ
天竺川
瀬
瀬
瀬



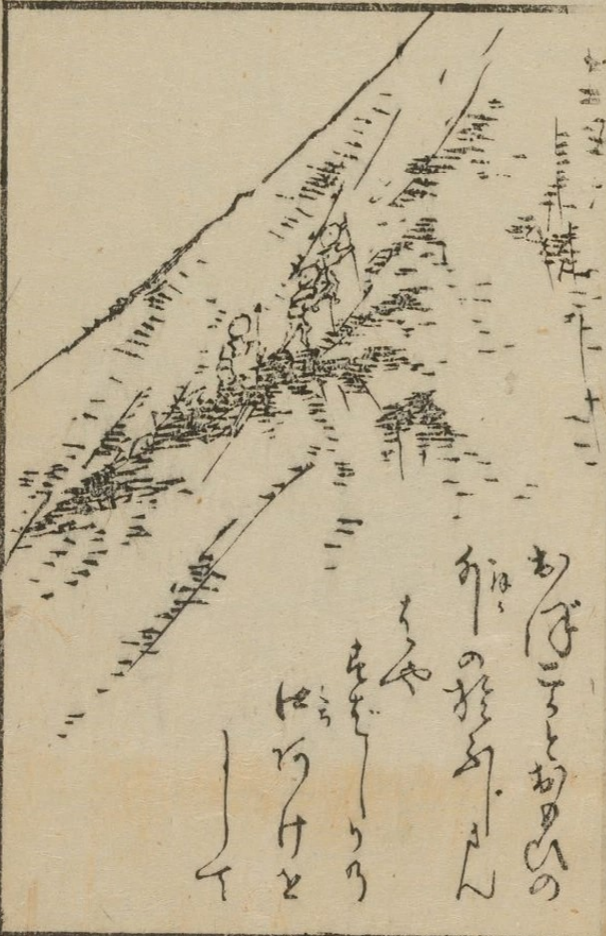
あつきのよりの
とどの秘所の
さめるまを

あつきのよりの
秘所の

三十一



あし^だ生^たく
は^{たい}は^{へん}大^あ象
あ^しあ^しあ^しあ^し
あ^しあ^しあ^しあ^し
あ^しあ^しあ^しあ^し



あ^しあ^しあ^しあ^し
あ^しあ^しあ^しあ^し
あ^しあ^しあ^しあ^し
あ^しあ^しあ^しあ^し

三十二



婦トシシガ

三圃

おたさのげ

お八

ち

り

富士山

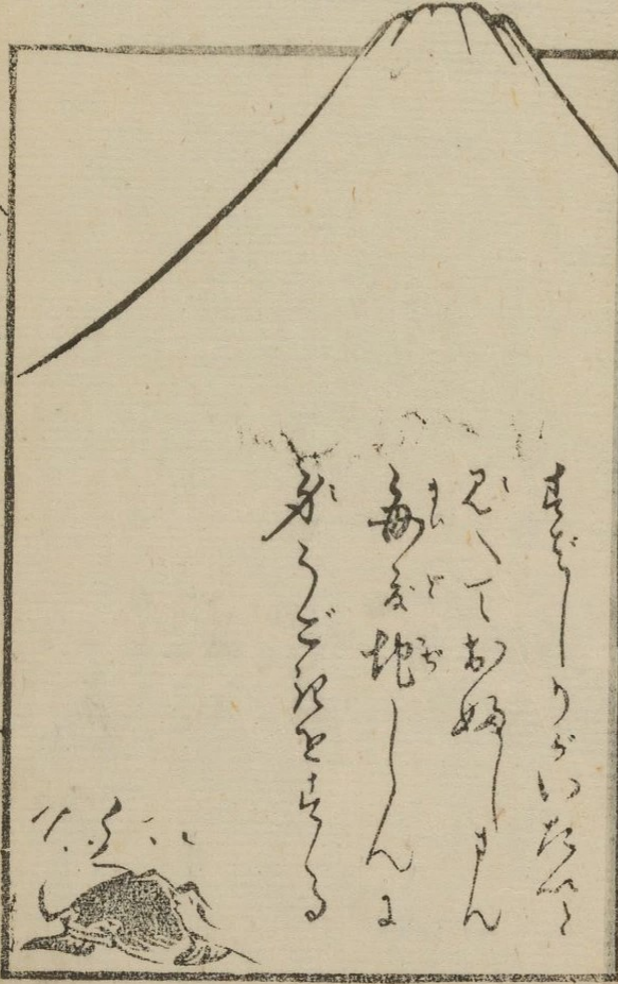
四十



黒雲や雲龍をとりて
いふか物と富士嶽うふ

富士山

富士百景

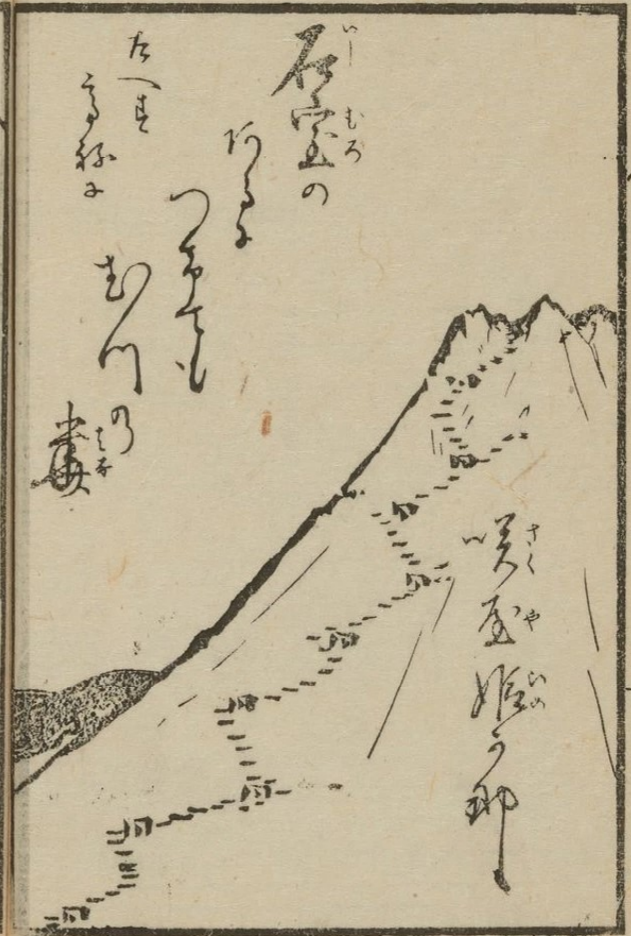


富士の山は
高き山なり
ふたつあり
ふたつあり
ふたつあり



甲二

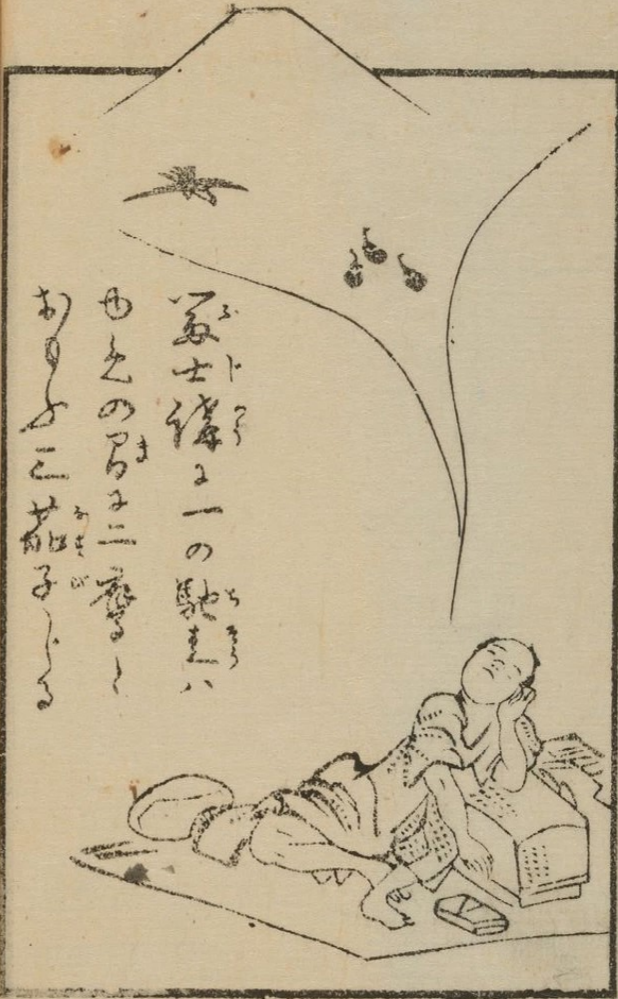
富士百景



石室の
ちいさ
まじり
まじり
まじり

富士の山は
高き山なり
ふたつあり
ふたつあり
ふたつあり





富士峰一の駒
 也との石三香
 おりこ花子



出だ
 小
 何ふや薩摩の
 水海が誦行と

富士の月づき

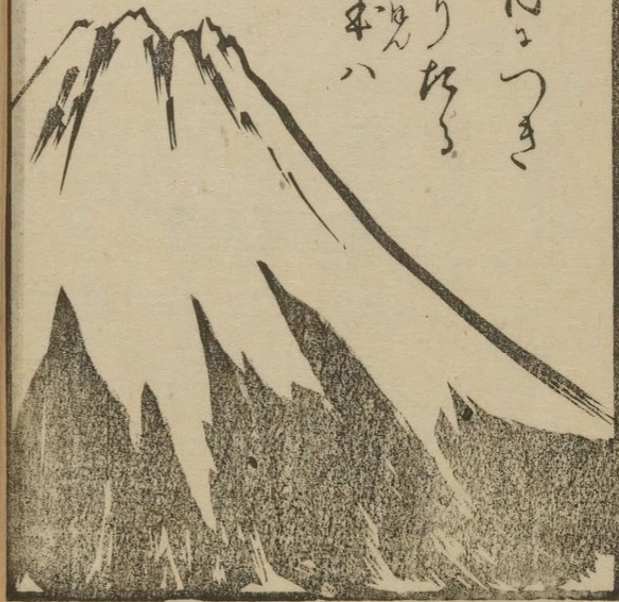
はなつかりたき

ふじと日本ハ

白雲子

うけ

多利



ふじのり

うきうき

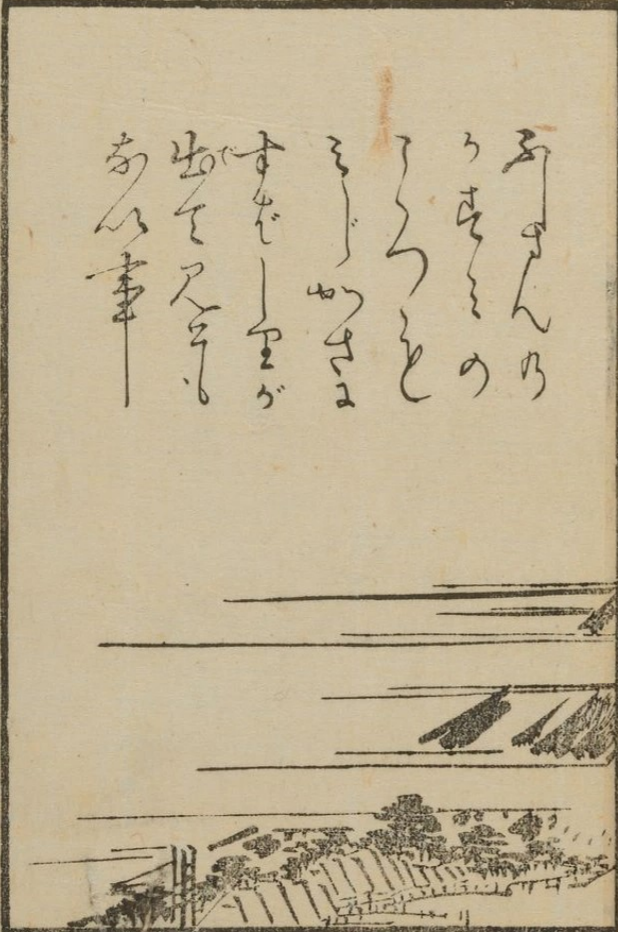
うきうき

うきうき

うきうき

うきうき

あふ事



富士百景

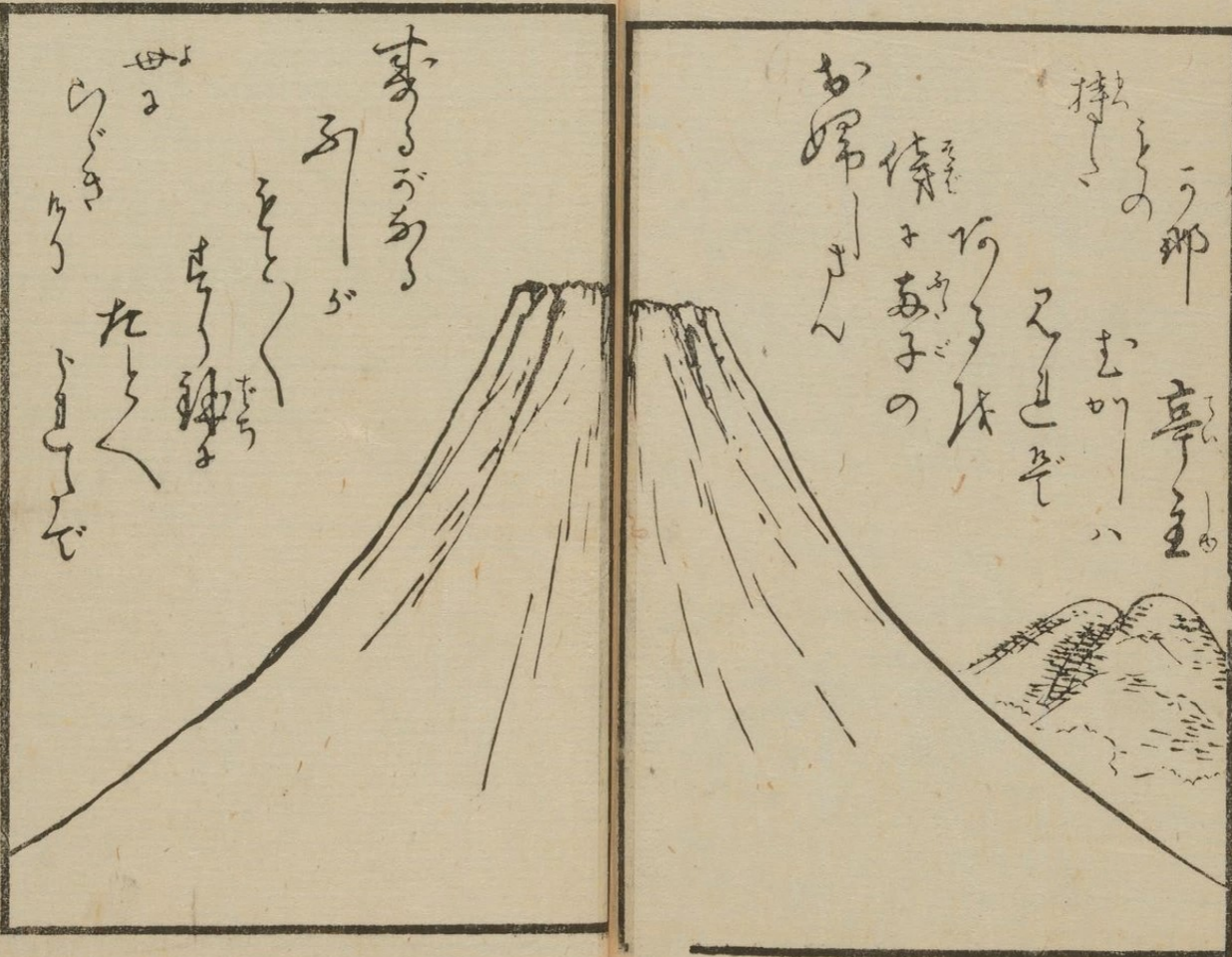
う郡 亭

樹の 木

又とそ

侍 何多氏
子 安子の

お婦



すま

あ

そ

た

た

の

富士百景



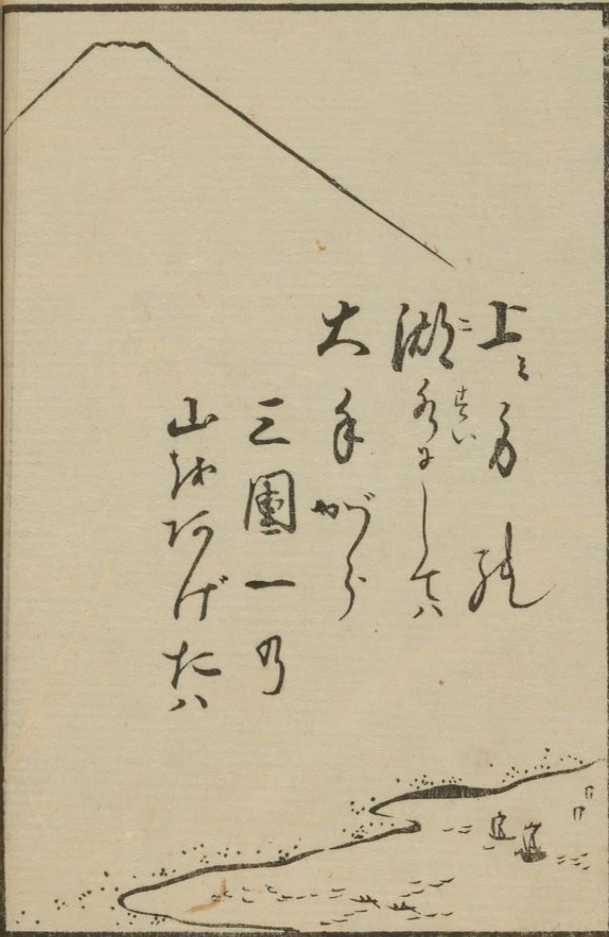
於婦おとこさんさんりりよ
人まがまああるるもも

侍まをを焼やくける
池い子こさんさんうう水み



婦おとこさんさん乃
君きたちち衣い体て
よよくく又また也なり也なり
吾わのの地ぢ今いまもも
至いたりり織おり

上る 池
湖 多し
大 手
三 園
山 中
一 乃
た 六



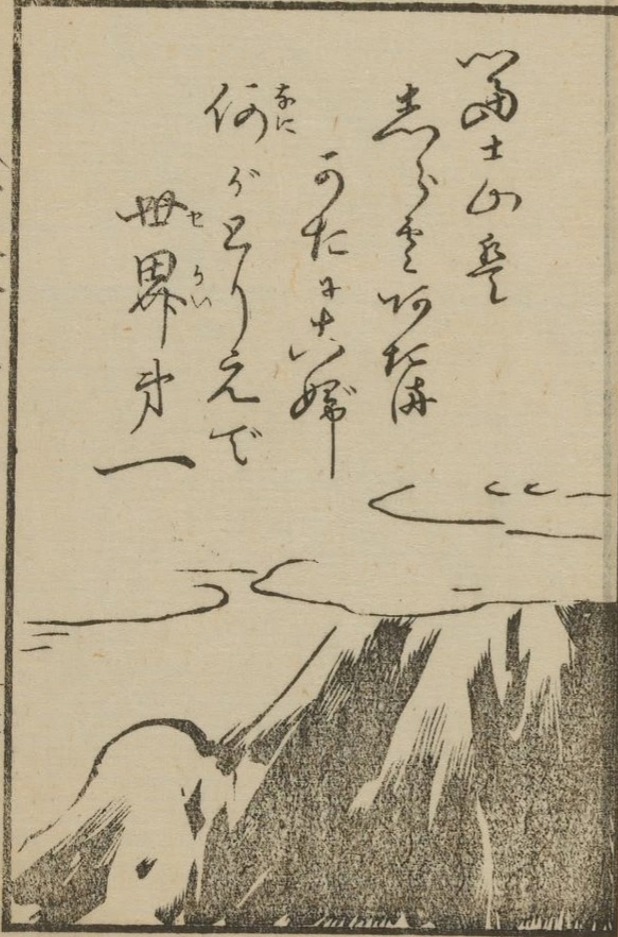
富士の峰

あまのついで

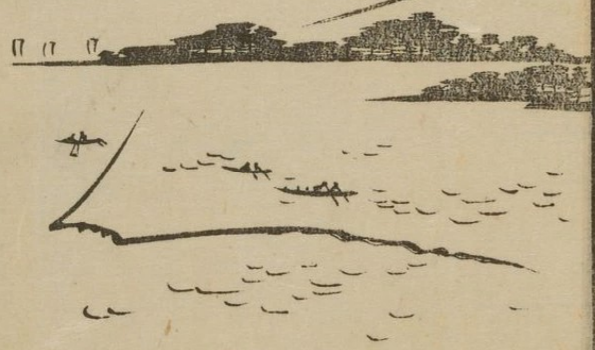
あまのついで

あまのついで

あまのついで



印^ふ日^ト人^んハ
 名^の於^に一^んハ
 ぬ^りう^なし
 田^た子^ごの^の浦^{うら}ヨ
 水^{みづ}の^のこ^こも



印^ふ日^ト人^んの^のこ^こも
 志^ます^ます^ま子^ご係^が色^{いろ}く
 田^た兒^ごか^かう^うの^のこ^こも
 甘^{あま}の^の旅^{たび}人^{ひと}

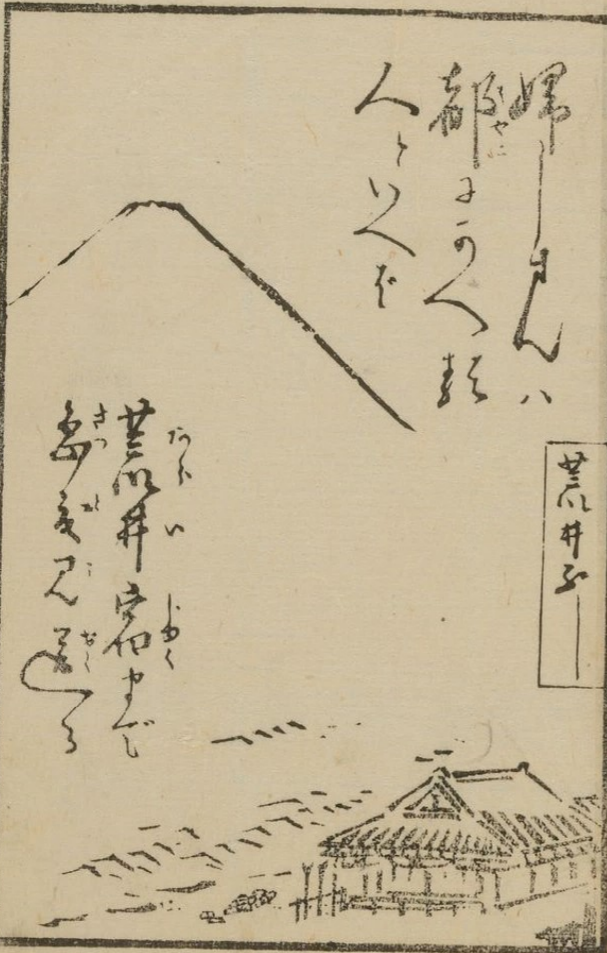




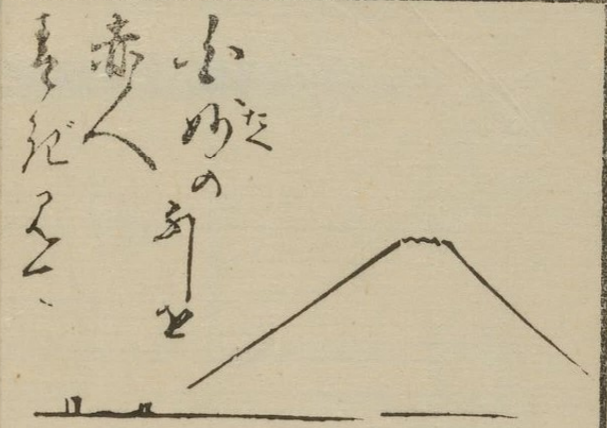
吹海風三糸の
 吹くを吹のけよ
 お婦の泣き声
 誰か

昔井

婦人
 誰か
 人々



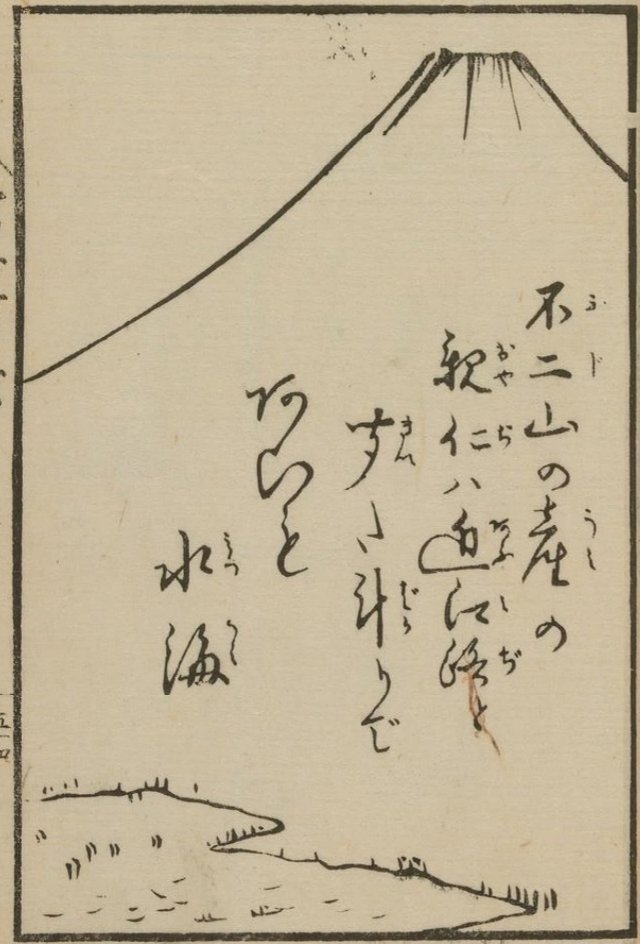
昔の井
 昔の井
 昔の井



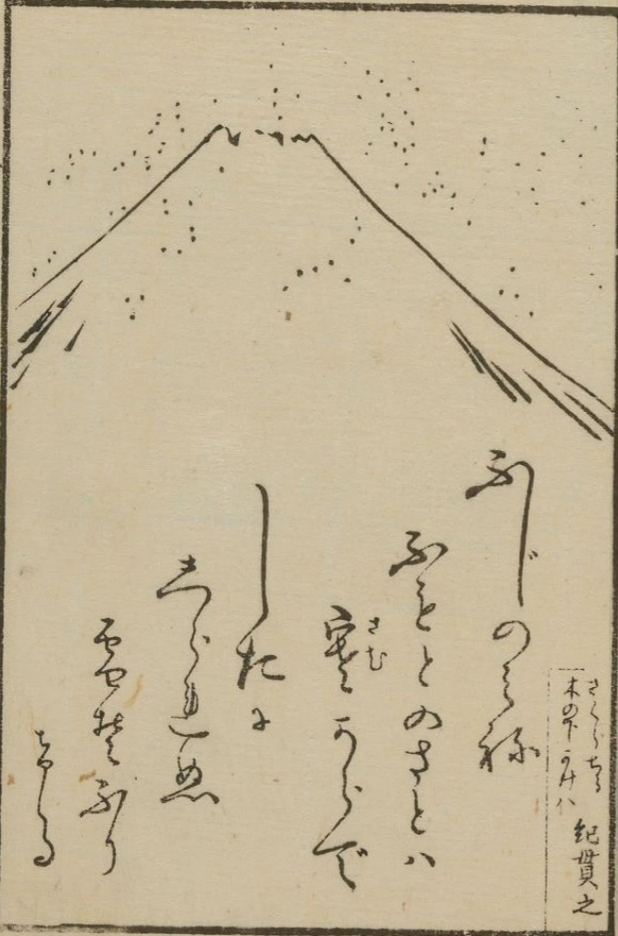
赤く
小町の
身だる



黄
赤の
續んぶ
馬

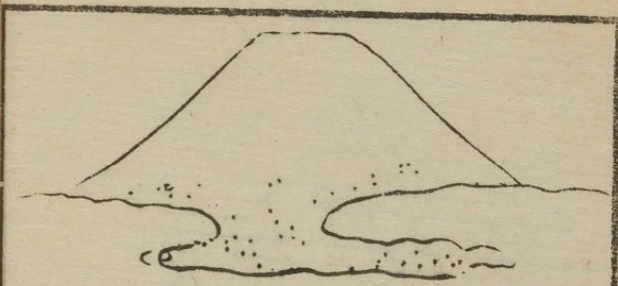


不二山の
軟仁ハ
す汁
水海

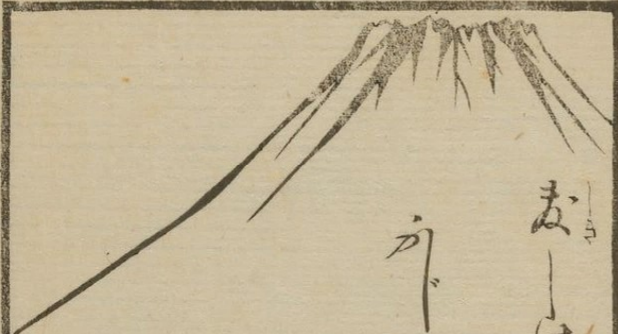


本貫之





婦トさんの
その様と云ふは
去らるるを
聖のふま
はるる
幸らと



あーはのま
くちびる西行も
かどのまを
高枕う那





雲 沈 沈
 遠 山 何 道 々
 東 西 乃
 大 冪 冪 冪
 冪 士 冪 冪
 水 海



早引 考世 萬用	年代記 <small>中本 並二枚摺</small>	百人一首 歌志多
早引 字室 萬用	庭切記 志形	女用 文章 歌志多
早引 小本 萬用	庭切 往來 <small>中本</small>	女庭切 往來
大難書 三世 相承	百姓 往來	女今川 <small>子書 狀入</small>
子字 文講 識 <small>中本</small>	高貴 往來 <small>大本 中本</small>	女孝 經 講 狀入
料理 本 志形	道中 記 歌 志形	子亦 何 而 白 山 出 雲
館 討 類	物語 類	一代 記 物

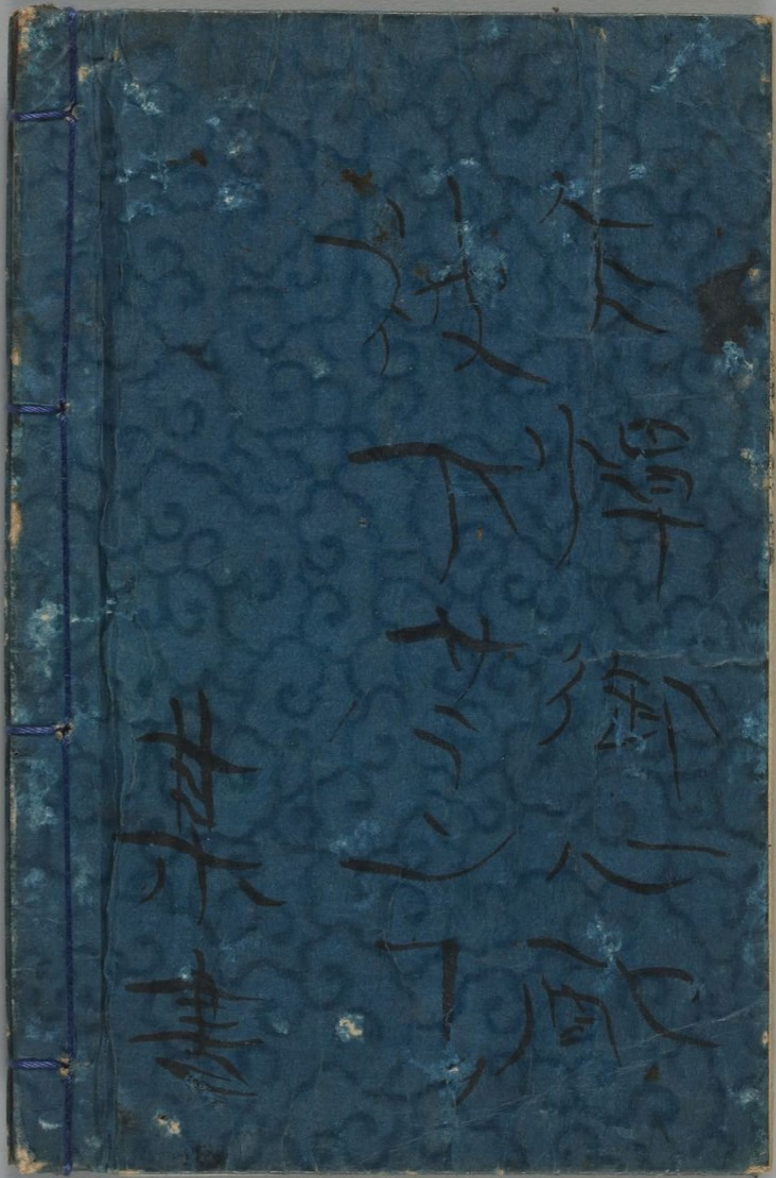
此書六十五枚 幸冊 債切物 品々 明細 早引 物

東都水間屋

馬喰町四丁目

吉田屋文三郎板

(全)



佛經

法苑珠林